

こうとう民報

2017年11月号 156

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 こうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

安倍9条改憲許さない!

4万人が国会を包囲!



東陽町スーパー前で宣伝と署名

南砂団地9条の会と戦争法の廃止を求める砂町の会は、11月12日、東陽町のスーパー前で「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」にとりくみました。

南砂、北砂、東砂の会員など20人が参加し、6人がリレースピーチし署名を呼びかけました。

南砂団地9条の会事務局長の斉藤信行さんが「9条に自衛隊を書き込めば日本がアメリカと一緒に海外で戦争する国になってしまう。国会発議をさせない声を上げましょう」と訴えました。

戦争法の廃止を求める砂町の会代表世話人の木庭みち子さんは「政府が核兵器禁止条約に署名すれば北朝鮮に強く迫ることができる。9条改憲はアジアの平和に逆行します」と訴えました。山本真・共産党区議も訴えました。

議会報告

今年9月、大阪空港を出発した飛行機からの落下物が大阪市内を走行中の軽自動車に直撃した事故や、成田空港出発便が茨城県の千場敷地に3キログラムもの部品を落とした事故など航空機からの落下物が相次ぎました。

日本共産党区議団は10月開催の決算委員会での問題を

やっぱり危険!

江東上空の低空飛行

取り上げ「羽田空港の機能強化」で「本区上空が出発便の経路にされれば本区でも同様の事故が発生する」と区の見解をたてました。

区は「国の報道では(羽田空港では)0件であった」とする一方「落下物はあつてはならない」と答へ、経路変更により本区でも落下物事故が

「自衛隊を書き込んでよい」と思つが、自衛隊が海外に行くことには反対」と署名に悩

ひどりで悩まないでいのち・くらし・雇用

なんでも相談会

11月3日、亀戸駅前公園と亀戸文化センターで、区民要求実現江東大運動実行委員会主催による「第9回江東なんでも相談会」が開かれました。

亀戸駅北口ロータリーでは、実行委員会のメンバーが横断幕とチラシ配布で案内。駅前公園ではテントを張って生活・法律・労働・健康・



む若者もいましたが、「頑張つて下さい」などの激励とともに署名が寄せられました。

医療 住宅・年金のコーナーに分かれて相談会。文化センターの研修室では、プライバシーに配慮した法律相談も行われました。

相談に応じた団体・機関は、東京東部法律事務所、区労連、東京十建、生活と健康を守る会、民主商工会、新婦人、年金者組合及び南葛勤医協扇橋

日本共産党江東区議団

2018年度予算要望書提出

11月7日、日本共産党区議団と江東地区委員会が、区内

国はこれまで羽田空港出発便が江東上空を通過する「北風運用」の製日は年間約6割、2200程度と説明してきました。ところが市民団体が過去1年間の状況を詳しく調査したところ、「北風運用」の割合は約8割、291日にも上ることがわかりました。

航空機騒音や落下物などによる被害を小さく見せよとする国の態度が改めて問われるものです。

診療所と12月1日リニューアルオープンの江東診療所。午後1時の開始とともに相談者が次々に訪れ、年金だけでは暮らせないの、自分でできそうな適当な仕事はないか、という70歳代の男性紹介された病院に入院したが、あとから高額な差額ベッド代を請求され困ったという高齢者など、いずれも切実な相談が寄せられていました。

実行委員会では「どの相談も、区役所や医療機関などの側が、制度や救済措置についての事前説明が不十分なため、誰にも相談できずに一人で悩んでいることがうかがわれるので、あらかじめ個々の事情に応じた親身な対応が必要」と話してました。

日本共産党江東区議団

諸団体との懇談や、日ごろ区民のみなさんから寄せられた切実な要望を踏まえ、区政に求められる重要課題を425項目にまとめた要望書を山崎孝明区長に提出しました。

区の来年度予算編成にあたっては、自治体本来の役割を果たすため、一千億円を超える溜め込んだ基金の一部を活用し、区民のくらしと福祉、平和を守る施策の拡充を図り、切実な区民要求に積極的に応えるべきだと申し入れをしました。

「北風運用」も大幅増の低空飛行計画を撤回すべきです。

仲睦

今年の秋は、雲一つない快晴の日が奇跡と言われるほど少なく、もう木枯らしが吹く立冬を過ぎました。ドイツのボンでのCOP23では、氷河の融解で湖が決壊したり、国土の浸水や漁獲の減少など、山国や島しょ国の深刻な実態が訴えられているなかで、火力発電の推進、輸出をすすめる日本は不名誉な「化石賞」。3日の国民大集会では、駅のごみ箱まで封鎖して米大統領訪日にそなえた予行でしょうか、5m間隔で警官が参加者と対峙してました。その日、国民の声など聞く耳をもたない首相は、ゴルフの練習をしています。大統領に先がけて来日した長女のイバンカ氏は、首相の前で「アベノミクスは、女性の活躍のために大きな役割を果たしている」などの賛辞を述べていました。同じ頃、世界経済フォーラムは、日本の男女平等度が144か国中114位まで下がったことを発表。その要因の一つである女性の政治参加といえば、希望の党代表を投げだした小池都知事と都民ファの葛飾区議選での凋落が頭をよぎります。北朝鮮問題で強力なタッグを誇った日米首脳会談では、トランプ氏と横田早紀江さんとの面談を演出する裏で、米国製兵器購入が3900億円に増え、11日から4日間、3隻の原子力空母を囲んで米日韓の軍事演習が実施されました。識者は言います「戦争などしている暇はない。地球が温暖化で危ない」と。

付録・近代文化と江東

伊藤左千夫とアララギ派歌人

牛舎にいる伊藤左千夫



概説 江東の歴史 (74)

正岡子規の門下伊藤左千夫は千葉県成東町生まれ。明治法律学校(明大)で学ぶも病気で退学し、1889(明治22)年、錦糸町で搾乳業をはじめました。

牛飼が歌よむ時に 世のなかの 新しき歌 大いにおこる

左千夫の意気をあらわすこの歌碑は、江戸普門院にあり、「野菊の墓」もこの時代の小説です。明治の末、不景気や水害で経営が苦しくなり、1913(大正2)年3月、牧場を大島6丁目に移しました。今の団地と城東高校内に次の歌碑があります。

朝起きて まだ飯前のしばらくを 狭庭に出でて 春の土踏む 豎川に 牛飼ふ家や楓萌え 木蓮花咲き 児牛あそべり

左千夫はその年7月に没し、普門院の墓に葬られました。彼の門下にすぐれた歌人がいます。島木赤彦は左千夫宅をしばしば訪れて、豎川の茅場の庵を詠みます。斎藤茂吉は「赤光」で近代短歌の最高峰をきわめます。左千夫3回忌のときの歌です。

亀戸の 普門院にて三年経し 伊藤左千夫のおつきどころ

中村憲吉は深川八幡前の下宿に住み、古泉千樞は処女歌集で隅田川の風景を詠みます。

土屋文明は左千夫の最も若い弟子です。「江東区」など江東の風景を詠んだ歌が多くあります。

夕日落つる 葛西の橋に到りつき 振り返り霧の中にとどろく東京を 他に、アララギ派の歌風や白秋に学んだ折口信夫や宮終二など、代表的歌人が江東を詠んでいます。

(注)土屋文明は、1928年の3・15事件で逮捕された翌年に24歳で獄死した伊藤千代子の諏訪高女時代の恩師。アララギ誌でその死を悼む「こころざしつづつ…」などの短歌を発表。

高さ世を ただめざす少女等ここに見れば 伊藤千代子がことぞかなしき

区職労第66回定期大会

区民のくらし・福祉・教育を優先する区政を!



大会は遠藤道治書記長が2017年度一般経過報告を行い、江東区は23区でも対人口比で2番目に職員数が少なく、多忙な職場の人員増(16職種164人)を要求してもゼロ回答という状況の中で、子の看護のための休暇の対象を、これまでの小学校3年生までから6年生までに拡大する成果を勝ち取ったことを報告しました。

また、山本民子副委員長が2018年度運動方針(案)を提案。実施2年目に入った区職員の「目標による管理」システムを公正、民主的に行わせること、第一線の現場で特に業務が集中する係長職の拡充を図ることなど、組合活動の方針を提案しました。

討論では、福祉の現場から、生活保護アスワーカーの厳しい勤務実態、保育園で日常業務が集中する係長職など、切実な声があつたといわれました。大会は、すべての議案を承認し、新たな執行委員会を選出。退任する西野智子氏に代わって、副委員長に山本民子氏が執行委員長に、書記長には遠藤道治氏が再任されました。

10月24日、江東区職員労働組合第66回定期大会がティアラフこうとうで開かれました。



「我が事」とは、地域の福祉を我が事(自分のこと)としてとらえること。地域住民や障がい者、子ども、高齢者がお互いを支え合うという互助を基本として公的な責任を後退させようとしています。「丸ごと」とは、相談や施設などでの各分野の垣根をなくし、一人の職員がすべての分野を担当するようになり、保育士・介護士などの各分野の専門性が軽視されています。

江東社保学校

11月6日、江東区総合区民センターで江東社保学校が開かれました。現在、政府・厚労省を中心に「我が事・丸ごと」地域共生社会という社会保障制度「改革」が進行中。「縦割り行政の解消」「地域での支え合い」などを掲げて包括的な支援体制を構築するとしています。社保学校では、「我が事・丸ごと」地域共生社会について、ティアラに立命館大学特任教授の峰島厚さんが講演。80人が参加しました。

「我が事・丸ごと」地域共生社会って何?

の全面展開をめざしているとし、おもな論点を紹介。

政府の「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置する趣旨と構想に対し、「福祉施設はどうなるのか」「障がい者のくらしや生存権がまもられるのか」とさまざまな危惧や不安が寄せられている問題点などをあげて解説しました。

主眼は公的責任後退

主催者を代表して青柳浩二江東社保協会副会長が「政府は、介護保険法、障害者支援法などの『改革』を進めようとしています。今後の福祉行政がどうなるのか一緒に考えていきたい」と挨拶しました。

内閣府主導で作業

講師の峰島氏は、あまり知られていない「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部は、安倍首相の直轄である内閣府主導で、厚労省大臣を本部長とする官僚のみで構成され、介護保険法や生活困窮者自立支援制度の見直しなど2020年代初頭

障がい者団体は「当事者不在」であり「助け合い」の美名のもとに、公的責任を後退・曖昧化させ、障害者の権利を弱体化させるものと峰島氏は指摘。地域の相談窓口や施設などでは、個人や世帯で複数の課題を抱え複合的な支援(介護・子育て、就労)が必要などがかわつており、各分野

野の縦割りの垣根をなくし包括的に支援することが必要だとしているものの、政府は制度の枠を超えて対応できる資格の養成(看護、保育、介護など)で少人数の職員がすべての分野を担当させようとしており、保育士・介護士など各分野の専門性が軽視されていると指摘。さらに、これまでの「自助・互助・共助」を、公的責任を弱めてポランティア募金で支えるなど、地域住民などに丸投げの「自立自助 互助 共助」ではないかと指摘しました。峰島氏は「各分野の運動を地域の中で広げて、政治の変革を実現することが大事になってきている」と呼びかけました。

行事日程 table with dates and events: 11月26日(日)10時 江東生活と健康を守る会 第45回定期大会 (総区民センター) 11月28日(火)19時 消費税学習会 主催:江東委員連・消費税なくす会 12月2日(土)10時 第29回江東区高齢者集会、4分科会 (江東文化センター) 12月7日(木)18時30分 江東市民連合世話人会 (総区民センター)